



2016

6月の健康コラム

Vo1. 87

腫瘍マーカー

腫瘍マーカーとは

腫瘍マーカーは、がんの存在によって血液中に増加する物質で、採血で簡単に調べることができます。しかし、がんが存在しても必ずしも増加するわけではなく、またがん以外の病気でも増加することがあるため、確実な指標にはなりません。したがって、数値に一喜一憂したり、振り回されないようにすることが大切です。

腫瘍マーカーは、①腫瘍が悪性か良性かを診断する際に補助的に利用する、②がんの再発時に増加することがあるため、再発の発見に利用する、③抗がん剤治療や放射線治療の効果を調べるために補助的に利用する、というのが一般的です。

代表的な12種類の腫瘍マーカー



- **AFP** 基準値 10.0ng/ml以下
肝細胞がんの発見に有効です。肝炎や肝硬変などでも上昇します。
- **CA15-3** 基準値 25.0U/ml以下
乳がんの特異性が非常に高く、主に乳がんの治療効果の判定や経過観察に用いられています。
- **CA19-9** 基準値 37.0U/ml以下
消化器系がん（とくに膵臓・胆のう・胆管）の発見に有効です。胃がん、大腸がん、膵炎などでも上昇します。
- **CA125** 基準値 35.0U/ml以下
卵巣がんのスクリーニング検査として有効です。子宮内膜症でも上昇します。
- **CEA** 基準値 5.0ng/ml以下
消化器系がんなどの発見に有効です。大腸がん、膵臓がん、胃がん、肺がんなど様々な悪性腫瘍で上昇します。（喫煙でも上昇します）
- **CYFRA** 基準値 3.5ng/ml以下
扁平上皮がんが高値になり、主に肺の扁平上皮がんや頭頸部腫瘍の経過観察に用いられます。
- **NSE** 基準値 10.0ng/ml以下
神経組織や神経内分泌細胞に特異的に存在する物質で、肺の小細胞がんや神経芽細胞種などで高値になります。

• **PIVKA-II** 基準値 40.0AU/ml以下

臓器特異性の高い腫瘍マーカーで、肝臓がんで高値になります。肝臓がんの発見や経過観察にAFPと併用されます。

• **ProGRP** 基準値 46.0pg/ml未満

肺の小細胞がんで高値になりやすく、治療効果の判定や経過観察などに用いられます。

• **PSA** 基準値 4.0ng/ml未満

前立腺がんのスクリーニング検査として有効です。前立腺肥大や前立腺炎などでも上昇します。

• **SCC** 基準値 1.5ng/ml以下

主に、肺や食道、子宮頸部の扁平上皮がんで高値になります。皮膚の病気で増加することもあります。

• **SLX** 基準値 38.0U/ml以下

肺がんなどで高値になります。偽陽性が少ないとされています。

• **I-CTP** 基準値 4.5ng/ml未満

骨の成分が分解される時に放出される物質で、主に転移性骨腫瘍（がんの骨転移）を調べるために用いられます。

